

にゆるにゆる 触手の館

聖なる奴隷

じん> そこは、城の地下牢...サラ姫は、そこに幽閉されていた...身につけているものは、びりびりに破れたドレスだけ...

じん> 手も足も鎖につながれ...自由を奪われている...ふと、人の気配に顔をあげる...

サラ> は!ここは...誰...なの?そこにいるのは...

じん> そこには、、主である、ジンの姿がある...顔は、薄ら笑いを浮かべている...

サラ> わたしを誰だかわかってるのですか?放しなさいっ!

じん> 「姫...今日は、ぼくのペットを連れてきたんだ...姫も気に入ってくれると思うよ」

じん> そういって、指をピシン!と鳴らすと、、...ニユル...ニユル...ニユル...

サラ> 何...この音?何をしたの?ジンっ!答えなさい!

じん> ...ニユル...ニユル...ニユル...ぐちゅぐちゅ...ずちゃ...ずちゃちゃ...ぐちゅ...

じん> ジンの後ろから、、何か近づいてくる...暗闇の影に隠れて姿は見えないが...

サラ> なに...何なの...ジン、答えなさい!命令ですっ。

じん> ジンは、少し下がったところで、、椅子に座り、姫のことを視姦する...

サラ> こっちを見ないで...

じん> ...ニユル...ニユルニユル...サラの足元に来て、やっと姿が確認できる...

じん> それは、目のないナメクジに似た生き物...一匹の大きさが30cmぐらいある、巨大な触手である...

サラ> いやあああつあああ...何?これは...ジン...早く、、この鎖を解きなさいっ!

にゆるにゆる 触手の館 <http://blue.ribbon.to/~nyurunyuru/>

じん> ...ニユルニユル.....ニユルニユル.....ニユルニユル...ぐちゅぐちゅ...

サラ> いやぁぁ...いやぁ...助けて、ジン...早く...早くっ!

じん> 「これから楽しくなるのに...なぜ姫を助けないといけないのですか?」

じん> 「ほら...いっぱい集まってきましたよ、サラ姫の周りに...私の可愛いペット達が...」

サラ> なにを言っているの...こんな...気色の悪い...退かしなさいっ!

じん> また音がする...一匹や二匹の数ではない...ぐちゅぐちゅ...にゆるにゆるにゆる...

じん> 無数のナメクジが、サラのまわりに集まってくる...

サラ> あっちにやって。いやぁぁぁ来ないで...

サラ> いやっぁ...は...早く、ジンっ! 鎖を...解きなさいっ!

じん> 足元からだけではない、、壁伝いに、サラの手や体のまわりにもナメクジは集まっていた...

サラ> こ...来ないで...こっちに...来ないで...いやぁぁ...

じん> 足元のナメクジが、姫の足首にさわる...

サラ> いやぁぁぁぁぁ...あぁぁぁ...気持ち...悪い...いやぁぁぁぁぁ...

じん> 冷たい感触...そして、ヌメヌメの体液が、姫の足にまとわりつき、、、ぬるっとする...

サラ> ジンッ! 早く...この気色悪いモノを...どけて...お願い!...ジンッ!

じん> 姫の足元のナメクジが、どんどん足に乗ってくる...

サラ> こんな...いやぁぁぁ...ジンっ...早く、私を助けなさいっ!

じん> ニユルニユル...ぬる~、、にゆる...にゆる...ぐちゅぐちゅ...

サラ> いやぁぁぁ...ヌルヌルして...気持ち悪い...こんな...

じん> ナメクジの腹が微妙な波を打って、姫のすべすべの足を愛撫する...

じん> 愛撫しながら、、、ナメクジは足を上ってくる...足首、膝、腿、内腿、、

サラ> んんぁぁぁ...いやぁ...気持ち...悪い...ジンッ! は...早く...

じん> 壁のナメクジも、、サラの腰に...腕に...腹に...乗ってくる...

じん> 腹を微妙に波立たせ...サラのやわらかい肌を、ヌメヌメの体液で愛撫する...

サラ> あっあああ...やめ...て...んんあああ...

じん> サラの胸にも、、ナメクジは愛撫を開始する...

サラ> あ...そんな...私の胸が...いやあああっあああ~っ!...

じん> ゆっくりとナメクジが、姫の胸を食い始める...そのきれいな胸に進行し...

じん> ネットの体液で、舐める様に姫の胸を愛撫する...

サラ> ああ...ああ...んああ...やめて...やめさせて...ジン...お..願...んん...

じん> 「気持ちいいのでしょうか...感じているのでしょうか...そのナメクジに身体中を舐められて...淫らな身体が反応するのでしょうか...」

じん> ゆっくりと...やさしく...サラの胸を弄るように愛撫する...

サラ> ちが...う...ああああ...私...感じてなんか...んんっ!...感じてなんか...あああ...

じん> 「そんなに息を上がらせて...身体を紅潮させて...もっと素直になるのです...サラ姫...」

じん> ナメクジの腹で、胸を...すべすべの胸を、やさしく愛撫して、、

サラ> あああ...胸が...胸が...んんああ...イヤ...こんな...感じてなんか...んああ...

じん> ヌメヌメの体液を擦りつけながら、、無数のなめくじがサラの胸を上を巻き回る...

サラ> あっ...あっ...んああ...

じん> 胸全体を包むように、、体をくねらせて、ナメクジがうごめく...這いずりまわる...

じん> サラ胸を...ナメクジが包み込み...腹を微妙に波立たせて、、サラの胸をやさしく愛撫する...

サラ> 胸が...犯される...こんなナメクジに...ああ...私...感じて...あああっ...

じん> ナメクジは、サラの胸全体を愛撫しながら...揉みまくりながら...

じん> サラの胸の上で、蠢きあう...這いずりまわる...

サラ> あああ...んん...んはあああ...あああ...

じん> 人の手では表現しきれない感覚が...サラの胸で沸き起こり...身体全体を支配していく...

じん> そして、ナメクジが口を開き、細長い舌を出して、サラの乳輪を舐め始める...

サラ> ああああっあ...乳首...気持ち...いい...

じん> サラの乳輪を...その舌先で、丹念に...丹念に舐めあげる...ぺろ~ん...ぺろ~ん...ぺろ~ん...

サラ> んんあああ...いい...ああん...

じん> ナメクジの舌先が...サラの乳輪だけを舐めまくる...乳首にはあたらないように...乳首を焦らすように...

サラ> あああ...ん...いやあいやああ...んっ...んっ...んっ...んあああ...

じん> 乳輪は、ナメクジの唾液でぐちょくちょに濡らされ...乳首も舌で舐められまくる...

じん> ナメクジの舌は...サラの乳輪を...舐めまくる...ぺろぺろぺろぺろぺろぺろ~...

サラ> ああん...あつあ...ん...んん...んああ...はああ...はあ...

じん> 「姫...乳輪を舐められて...焦らされて、感じてるんじゃないのですか？」

じん> 「...ほら、こんなに乳首が大きくなっていますよ...」

サラ> いや...見ないで...ジーン...私を...見ないで...お願い...こんな醜態...見られたく...ない...ああああ...

じん> 「ナメクジに...舐めてもらいたいのですね...なら『私のイヤらしい乳首を舐めてください...』とお願いするのです...」

サラ> そんな...私...言えませ...ん...私...そんなこと...あああ...んあああ...もう...許して...ジーン...

じん> 「こんなところを止められて...一番困るのは...サラ姫自身ではないですか？」薄ら笑いを浮かべながら...

サラ> あああっ...わ...たし...の...イヤ...らしい...ち...乳首を...舐めて...んっ...舐めて...くだ...さい...

サラ> お...願...い...し...ま...す...私...の...イヤらしい乳首を...舐めてください...ご...ご主人様~っ!!

じん> サラの乳輪を舐めまわしていた触手が...一斉にサラの乳首を、その長い舌をレロレロさせて舐め始める...

じん> 「やっと素直になれましたね...ご褒美です...いっぱい...舐めてもらいなさい...私の性奴隷『サラ』...」

サラ> ああああ...乳首...舐められてる...はあああ...感じる...感じる...んあああん...

じん> サラの乳輪を舐めながら...微妙に、舌先が乳首にもあたるように...ぺろぺろぺろぺろ...と舐めまわす...

じん> 舌先が乳首にあたるたびに、サラの身体がピクン!とはじける...

サラ> あああ...んっ!...ああああ...んっんっ...すご...い...キモチイイ...私のおっぱい...乳首...すごい感じる...

じん> だんだんと...舌先を乳首に擦りつけるように...サラの身体が激しくピクン!ピクン!とはじけるように...

サラ> ああんっ!...ああんっ!...そんなに舐めちゃ...あああつあ...ん...

じん> 今度は...ナメクジの舌先がサラの乳首だけを舐め始める...ぺろぺろぺろぺろぺろぺろぺろ~...

じん> 乳輪を舐められ...ナメクジの唾液でべとべとにされた乳首は...舌先が晝く度にくちゅくちゅとイヤらしい音を立てる...

サラ> ああっあ...聞こえる...グチュグチュって...私の乳首...舐められてる...ナメクジに...舐められて...私...感じてる...あああ...

じん> ナメクジの舌先が...コリコリに硬くなった乳首に、ぬめ~っと巻き付いてくる...

サラ> ああああああっ!...ダメダメ...そんな...ああ...

じん> 乳首に巻きついた舌は...サラの乳首を「きゅ~っ!」と締め上げながら、その舌を動かして...乳首を愛撫する...

サラ> あああ...あああっあ...んっ!...

じん> そして...締め上げられた乳首に先っぽに...別の舌が伸びてきて、乳首の先端を舐め上げる...

サラ> ああああっああああ~んっ!...すごい...すごい...感じる...乳首...キモチイイ...

じん> 乳首に巻きつかれ...締め上げられ...愛撫され...その先端も、れろ~ん...れろ~ん...と舐め上げられる...

じん> ナメクジの唾液で...サラの乳首は...ねとねと...べとべとに汚される...

サラ> んあああ...こんの...初めて...こんなに...感じちゃうなんて...すごい...

じん> 胸全体を愛撫され...揉まれ...舐められ...乳輪も乳首も、舐めまわされ...締め付けられ...愛撫され...

じん> 人の手では表現しきれない感覚が...サラの胸を中心に...身体中を支配していく...

サラ> あああ...いい...感じる...感じてる...私...いっぱい感じてる...あああ...

じん> 「どうだ、サラ...なめくじに愛撫されて感じてる気分は...」

じん> 視姦を続けている、ジンがサラ姫をイジメルように言う...

サラ> あああ...ご主人様...見ないで...淫らな私を見ないで...あああ...はああん...ああ...ああっ...

じん> なめくじの体液が...胸から滴る...どろ~ん...どろどろ...なめくじが蠢くたびに、グチュグチュと嫌らしい音がする...

サラ> あああ...イヤらしい音...ぐちゅぐちゅって...聞こえる...ああん...

じん> 一匹のナメクジが、、サラの顔を愛撫しはじめる...

サラ> ああああああっ!...いやああ...はああっあん...

じん> ほっぺを...みみを...口からどろどろの体液を流しながら...サラの顔中を、なめくじが愛撫する...

じん> そして、、なめくじは、サラの唇を愛撫する...

サラ> んんっ...いや...いや...あはあああっあん...んああ...

じん> 口を開き、舌でペロペロと、、サラのやわらかい...かわい...唇を愛撫する...

じん> だろだろの体液で、その唇を、、いっぱい濡らして...ヌメヌメにして...べとべとにして...

サラ> んっ！...やめて...んあああ...

じん> なめくじは、、その体を、サラの口の中に、滑りこませ...動かしてくる...

サラ> んぐ...んぐ...んああ...んっ！...んぐんぐ...

じん> サラの口を無理やり開かせ...だろだろの唇に、その体を滑らせてくる...

じん> くちゅくちゅ...くちゅくちゅ...ぐちゅ...サラの口の中に、なめくじの体液が広がる...

サラ> んぐあ...やああ...んん...こんなの...

じん> その甘い体液が...一気に口の中を支配し...だろだろの体液が、、サラの舌に絡み付き...舌を包み...舌を誘う、、

サラ> あああ...んぐ...体が...熱い...よお~...

じん> なめくじは、その体を微妙に波立たせ...サラの唇を愛撫し...さらにヌメヌメに...べとべとにしていく...

じん> なめくじは、その体を口の中でくねらせ、舌を愛撫する...

サラ> はああん...私...火照ってる...私の体...ナメクジに犯されて...火照ってる...あああ...

じん> 体を舌に絡ませ...体液を舌に絡ませ...口の中で、蠢く...這いずりまわる...

じん> その体がうごくたびに、、ぐちゅぐちゅと嫌らしい音が、サラの口から漏れる...

サラ> んんぐ...んああ...んぐぐぐっ！...んぐ...んああああああ...

じん> だろだろの体液とサラのヨダレが混じった...ねちょねちょの液体がサラ口元から滴り落ちる...

じん> べちょ！...その滴り落ちた粘液が、サラの胸につき...胸を責めるナメクジの動きがいつそう早くなり...

サラ> あああん...ああ...んっ！...はごい...感じる...いっぱい...感じて...わ...たし...はあああん...

じん> サラの胸を...触手が舐めまくり...撫でまくり...乳首も、乳輪も...胸全体で激しく蠢きあう...

サラ> あああ...んん...口の中が...ネっとりしてる...あああん...

サラ> 体中が...犯されてる...ナメクジに...苛められてる...あああん...

じん> 無理やり舌を絡ませ...ナメクジは、その体をくねらせ...サラの口の中を激しくかき混ぜる...

じん> 口の中のナメクジの動きが...蠢きが...だんだん速くなる...

サラ> あああん...ああん...すご...いっ！...ああん...

じん> 「なめくじに、汚されていく気分はどうだ？」 ジンはそう言いながら、不気味に笑う...

サラ> すごい...感じる...気持ち...いい...いいの...いっぱい...感じる...ああん...

サラ> こんな...初めて...ああん...あんあんっ!...ああああ...

じん> ナメクジは愛撫を続ける...サラの身体を撫でまくり、舐めまくり、ぐちょぐちょにしていく...

じん> ジンがサラに近づき...内腿を愛撫していた少し大きめのナメクジを手に取り、

サラ> あああ...何を...する...の...ご主人様...ああああ...ご主人様あ~...

じん> 「もっと気持ちよくしてあげるよ...」 そう言いながら、手に取ったナメクジをサラのアソコに押し当てる...

サラ> ああああああああつああああああんっ!!!...んあつああ...はあああん...

じん> ぐちゅぐちゅ...ぐちゅぐちゅ...ずぎゅ!...ぐちゅぐちゅ...アソコから溢れた愛液をナメクジが舐める...

サラ> あああ...いい...気持ち...いい...ああ...もっと...もっと...苛めて...ああ...

じん> アソコに押し当てられたナメクジは...舌をレロレロさせて...アソコの中に舌を入れる...

サラ> はああん...あつあ...んっ!...ああ...んああ...ん...

じん> ジンはさらにナメクジを押し入れる...グチュ!ずぶずぶ~...ずぶ~...ぐちゅ...ぐちゅ!

じん> ぬるぬるの体液とサラの愛液で、ナメクジはどんどん奥の方に入っていく...

サラ> ああああ...入って...くる...ナメクジが...私の中に...入ってくる...あああん...

じん> なめくじは体をくねらせながら...グチュグチュと音を立てながら...サラの中に...奥まで入っていく...

サラ> イヤなのに...こんな...でも...感じる...き...キモチイイ...ああ...んんあああああつああ...

じん> サラの内壁を愛撫しながら...ナメクジが中で蠢くたびに、ぐちゅぐちゅと嫌らしい音がして...

サラ> あああ...私の中で...ナメクジが...ああああ...すごい...感じる...んああ...

じん> ナメクジの頭が...サラの子宮に届く...体液と愛液でぐちゅぐちゅになった頭で...サラの子宮を刺激する...

じん> ナメクジの頭が、サラの子宮を愛撫する...頭を子宮に押し付け...舌でレロレロして...子宮を...もてあそぶ...

サラ> あああ...奥まで...弄られてる...子宮が...犯されてる...こんな...初めて...あああん...

じん> なめくじは、その体をサラの中でくねらせ...中をかき混ぜる...ぐちょぐちょに...

サラ> あああ...ああん...んああああ...そんなに...動いちゃ...あああ...

じん> ナメクジはサラの中で蠢き...内壁を愛撫しながら...体を伸ばし...縮めて...ピストン運動を繰り返す...

じん> ぐちゅぐちゅぐちゅ...なめくじの体が動いた時に、愛液と体液が嫌らしい音をたてる...

サラ> あああ...気持ちいい...いい...ああああ...聞こえる...ぐちゅぐちゅって...聞こえる...ああん...

じん> なめくじの動きが、だんだんはよくなる...子宮を愛撫するリズムが...体をくねらせるリズムが...ピストン運動が...

サラ> あああ...あうん...あん...いい...あ、もう...私...ダメ...イキそう...ああ...ああああああああああ...

じん> アソコの中のナメクジだけではない...胸を...腰を...お尻を...足を...口を愛撫している無数のナメクジの動きが早くなる...

サラ> あああ...ダメダメ...ああ...イク...イク...ああああ...あああああああつあああつあああつああああ...

じん> その体が硬くなる...そして...なめくじの動きが止まる!...どびゅ!!どくっ!どく...どくどく...

じん> ナメクジはサラの顔に...口に...胸に...足に...腰に...サラの身体中に...どろどろの白濁の精液を吐き出す...

サラ> あああ...いっぱい...いっぱい...汚されてる...ああ...顔が...胸が...身体中が...あああん...

じん> サラの口から...顔から...ナメクジの精液が垂れる...

じん> どん~んと糸を引き...サラの全身に...白濁したどろどろの精液が滴る...

サラ> はああああ...はああああ...あうん...はあ...はあ...はあ...ううん...

じん> 「どうだ...私のペットの味は...、ペット達はまだ満足してないようだがな...」

じん> ジンの言うとおり...、無数のナメクジは、まだサラへの愛撫を続けている...

サラ> いや...ご主人様...見ないで...私...こんなに汚れてる...あつ...あうん...お願い...見ないで...ああ...

じん> アソコの中で蠢いているナメクジをジンが取り除く...「どうだ...おれのモノがほしいか?」

サラ> はああん...ご主人様...私、もう...ああ...

じん> そういって...、大きなちんちんを出す...そして、その先をサラのアソコを押し付ける...

じん> 手でちんちんを揺らし...アソコを愛撫する...グチュグチュと音がする...

サラ> あうん...あつ...うああん...んん...ご主人...様...ああん...

じん> そして...一気に中に奥まで突き入れる!!!グチュグチュ...ずぶずぶずぶ~!!グチュ!ずぶずぶ!!ずぶ~...

じん> サラの奥まで...サラの子宮にあたるぐらい奥まで...ちんちんが突き刺さる...

サラ> はあああああんっ!!!いやああああ...あつ...くっ...ああんあつああ...

じん> サラの中は、ナメクジの精液とサラの愛液が交じり合った液が溢れている...

じん> そのどろどろの液体がモノを包み、、硬い肉棒とどろどろの液体が、、サラの中を、ぐちゃぐちゃにかき混ぜる...

サラ> あああ...ぐちゃぐちゃ...聞こえる...ああああん...んあああ...

じん> 腰を振る度に...グチャグチャと...その間も、、ナメクジ達は愛撫を続ける...

サラ> あああ...あああ...犯されてる...ナメクジに汚されたこの身体を...ご主人様に...犯されてる...

じん> 白濁の精液でぐちょぐちょに汚れたサラ姫の身体を...ナメクジの体で...口で...舌で...擦りつけ...

じん> ドロドロの精液をサラ姫の身体に塗りつけながら...押し広げながら...愛撫する...

サラ> あああ...あああ...ん...んあああ...すご...い...ご主人様...あああ...

じん> サラ姫の身体の上で、、ナメクジが蠢き...這いずりまわり...舐める様に愛撫する...

じん> サラが体をくねらせるたびに、どろどろの精液がどろ...と身体から滴りながら糸を引く...

サラ> あああん...はああ...んんあああ...ご主人様...ご主人様あ...ああああん...

じん> ジンはそれにはかまわず、、奥まで、、サラの奥まで届くように、、腰を激しく振って...

じん> 先っちょが子宮を刺激し...肉棒が、内壁を愛撫する...

サラ> あああ...ご主人様のオチンチンが...私の子宮を...あああ...子宮が...ああんっ!...

じん> 「サラ姫...最高だ...気持ちいいよ、姫...」

じん> 腰の振りが早くなる...バン!...バン!...バン!バン!バン!バン!バン!バン!バン!

サラ> あっ!...あっ!...あっ!...そんなにしたら...私...わたし...イッチャウ...イッチャウ...ご主人様あ...

じん> 奥まで...激しく...硬い肉棒が、、サラ姫の身体を貫く...

じん> 「はあ...はあ...はあ...姫、、いくよ、姫の中に...中に...」

サラ> あああん...出して...ご主人様...私の中に...いっぱい...出して...汚して...私を...ぐちゃぐちゃに汚してえ...

じん> 「んあ、、んっんんっ!」

サラ> あ...あ...ああ...イク...イッチャウ...あああああああつあつあああああ~~~~っ!!!

じん> っどっびゅ~!!!どっびゅ!!どっびゅ~!どびゅどびゅ...どくどくどく...どっく...どっく...どろどろ...どろ...

じん> 肉棒から大量の精液が発射される...勢いよく飛び出した精液が子宮にあたる...

にゆるにゆる 触手の館 <http://blue.ribbon.to/~nyurunyuru/>

サラ> あああ...ご主人様の精子が..私の子宮に..当たってる...あああ...

じん> サラの中に入りきらない精液が、、アソコから垂れてくる...

じん> ナメクジの精液とジンの精液と、、サラ姫の愛液が混ざり合った...どろんどろんの液体が...アソコから滴る...

サラ> あああ..私のアソコから...ご主人様の精液が..私の愛液が..垂れてくる...あああ...

じん> どろどろの液体が..サラのうち腿を伝わり...下に落ちていく...

サラ> はああ...はああ...はあつあああ...ご主人..さま..あうん...

じん> 「サラ...これでお前は、私のペット...性なる奴隷だ...これからも...ずっと...」

じん> 「私の可愛いペット達に..私に...その淫らな身体を捧げるのだ...」

サラ> はあ...ご主人..さま...これからも..私の身体を..犯し続けて...ください...お願い...します...